

<事業申請書「6. 事業内容」～「8. 期待される成果と成果を測る指標」>

6. 事業内容

<事業全体概要>

本事業は、ラオスの中でも特に5歳未満児の死亡率が高く、また小児医療人材の技術・知識不足が課題でもあるファパン県ソン郡・ファムアン郡において、5歳未満児の死亡率及び疾病率低減に貢献することを上位目標に3年間の事業を展開するものである。活動は主に医療従事者へのアプローチ、村落健康委員会メンバーを中心とした地域住民へのアプローチ、そして関係者の自律的事業管理を促進するためのコンポーネントに分けられる。具体的には、次の3つの事業目標を置いて活動を進める。

成果1：ファパン県ソン郡・ファムアン郡における医療施設の医療従事者の小児医療に関する知識、技術の向上を通じ、適切な小児医療が小児（5歳未満児）に提供される。

成果2：住民の小児疾病、疾病予防に対する理解が高まり、適切な受診行動が促される。

成果3：関係者全員が問題を把握し、解決手段を考え実行する。

なお、本事業実施において医療行為は含まれない。

<第2年次事業概要>

第2年次は、第1年次の研修で参加者らが得た知識・技術を強化していくため医療人材育成活動を継続し、小児医療の質改善に取り組む。同時に、村落健康教育の担い手へ継続研修や研修後の実践サポートを通じて村落レベルでの健康普及活動の活性化に取り組む。

<活動内容>

第2年次に実施する活動を以下に示す。なお、活動番号は第1年次に提出した事業総括表にある活動番号に基づく。

成果1に係る活動：5歳未満児に対する診療技術の向上

活動1 - 2. 5歳未満児診察用の医療備品の配備

内容：購入が必要な物品のリストアップと調達、配布。2017年7月末の時点での物品案は次の通り。

物品名
Nebulizer（吸入器）
Pulse oximeter for children（動脈血酸素飽和度計測器）
Infant resuscitation unit（新生児蘇生ユニット）
Thermometer IRT-4520（耳式体温計）
Baby scale HC（新生児用体重計）
Scale for adult（成人用体重計）
Infant Wormer（保育器）

Fetal heart doppler (胎児心音ドップラー)

対象施設：郡病院 2 箇所，ヘルスセンター 1 3 箇所

1－3－2. 小児疾病統合管理システム (IMCI*) フォローアップ研修 (2 年次～3 年次)

内容：座学，ロールプレイ，ケーススタディ，郡病院での実地研修など

期間：：2～3 日間程度の研修を各郡 2 回実施

対象者：ソン郡およびフアムアン郡の郡病院職員，ヘルスセンター職員 計約 3 4 名程度

* IMCI: WHO や UNICEF が，医療資源の限られた地域で使用を推奨している，5 歳未満児の死亡原因の上位をしめる下痢や肺炎に重点をおいた診断ツール。

【変更箇所】

1 年次の IMCI リフレッシュ研修から，フォローアップ研修に名称を変更。

理由：小児医療知識は IMCI の内容にとどまるものではなく，受講者は同じ内容を復習するのみでなく，必要に応じて追加の知識を得る必要があると 1 年次事業を通じて理解が変化した。そのため，復習のニュアンスの強いリフレッシュではなく，ニーズに基づいて研修内容を組み立てるという意味も込めてフォローアップに変更した。

活動 1－4. ヘルスセンターにおける共同技術監督 (継続モニタリング)

内容：第 1 年次 (1－3－1 IMCI 臨床研修) で指導員研修を受けた県・郡病院職員によるヘルスセンター訪問型技術監督にメドウサン・デュ・モンド ジャポン (以下，MdM) チームが同行し，モニタリング支援・強化を行う。具体的には，年 1～2 回外部小児専門家を派遣し，モニタリングに同行して，スーパービジョン (技術監督) ツールを活用しつつ助言や指導を行う。スーパービジョンツールは，診察技術，薬局薬品管理，施設マネジメント，衛生管理などについて，研修で得た知識・技術が正しく現場で実践されているかを確認するためのチェックリストで，標準化されたフォームを用いて行なう。

成果 2 に係る活動：村落における小児医療に関する正しい知識の普及

活動 2－1－2. 情報・教育・コミュニケーション (IEC: Information, Education and Communication) 教材の作成

内容：村落健康普及ボランティア (VHV: Village Health Volunteer) が村落にて住民を対象にした教育活動において使用するフリップチャートの企画・製作，健康普及メッセージをプリントしたグッズ，ポスターなどの補助教材の作成。

MdM は，県・郡保健局と協力して教材内容の吟味，教材サンプル製作，発注を行う。

活動 2－3. VHC (Village Health Committee) メンバー対象研修

内容：村落健康教育の進捗確認，健康教育内容の学習など

	期間：4日間の研修を郡病院エリアおよび各ヘルスセンターエリアにて開催 対象者：VHCメンバー（2郡112村より5～6名程度） MdMは、県・郡保健局と研修内容を協議し、必要教材などを準備する。 【変更箇所】 事業総括表の活動2－3－1および2－3－2を統合する。 理由：2つの異なる研修の参加者がほぼ同メンバーであることを考慮し、効率的に研修を企画・実施するため、年2回予定していた研修を年1回にまとめた。研修内容に変更はなく、2回分の内容を1回の研修でカバーするよう調整する。 <u>活動2－4. 村落保健活動に必要な備品の配備</u> 内容：村落レベルの小児栄養チェック能力を高めるため、体重計、身長計、体温計などを各村に配置し、VHVに適切な使用と管理方法を指導する。 【変更箇所】 第1～2年次にかけて行なう予定であったが、配布準備が順調に進んだため1年次に配備が完了する目処。そのため2年次の活動計画から外す。 <u>活動2－5－1. VHVによる村落での健康普及教育サポート</u> 内容：活動2－3の後、VHVらによる村落での健康普及教育を現場でサポートする。MdMは、VHVが健康教育に協力する郡病院・ヘルスセンターのアウトリーチ活動への同行、村落での自主的健康集会に参加し、アドバイスを行う。 <u>活動2－5－2. 教訓共有・課題解決会議</u> 内容：活動2－5－1での情報がある程度整理された時点で、県・郡保健局および郡レベルの行政キーパーソン（郡行政局長、郡情報局、計画局、教育局、青年同盟等の各組織郡代表レベル）を召集し、データ、課題の共有を行う。参加者全員で、解決の方法を検討し、次期に応用することが目的。 成果3に係る活動：関係者全員が課題を把握し、問題解決に向けて行動する <u>活動3. IMC（Implementation Monitoring Committee, プロジェクト実施管理委員会*）ミーティング</u> 内容：事業の進捗についてIMCへ報告し、協議（年1～2回程度）。年1回程度、会議の事前にIMCメンバーから選抜した外部調査員を村落に派遣し、ヘル センターのサービスに対する満足度調査などを行い、会議にて共有する。 開催場所：フアパン県保健局 * 委員会は、国レベルから郡レベルまでの関係者代表から構成される。 上述のとおり、本事業は、2015年に国連が定めた「持続可能な開発目標」
--	---

	(SDGs)における目標3の3－2で掲げられた「すべての国が新生児死亡率を少なくとも出生1,000件中12件以下まで減らし,5歳以下死亡率を少なくとも出生1,000件中25件以下まで減らすことを目指し,2030年までに,新生児および5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する」に合致している。												
	1. 直接裨益人口 598名 (病院・ヘルスセンター対象研修参加者:38名,村落住民対象研修参加者:560名) 2. 間接裨益人口 約49,350名 (ファムアン郡・ソン郡の人口。5歳未満児人口約6,500名を含む) 参考:ファムアン郡,ソン郡 人口:約49,350名												
7. これまでの成果,課題・問題点,対応策など	①これまでの成果 1. 5歳未満児に対する診療技術の向上 活動1-1. IMCI 指導員養成研修 期間:2017年9月4日～8日 対象者:フアパン県保健局職員,フアパン県県病院職員,ソン郡およびファムアン郡郡病院職員 合計12名 成果:研修受講者12名全員が,研修で小児医療トレーナーとしての知識・技術を獲得した。 事前テストでは,50点以上が受講者全体の22.5%にとどまったが,事後テストでは,50点以上取得者が全体の94%に達した。 事前テスト平均点は100点満点中64.4点,事後テスト結果は94.4点で満点が半数以上を占め,参加者の理解度の高さと,事前テスト結果も比較的高く,5月に実施したIMCI 臨床研修の効果がみられた。 ＜事前・事後テスト結果 受講者成績分布表＞ <table><tr><td>100点満点中</td><td>50点未満</td><td>50～69点</td><td>70点以上</td></tr><tr><td>事前テスト結果</td><td>33.3%</td><td>33.3%</td><td>33.3%</td></tr><tr><td>事後テスト結果</td><td>0%</td><td>0%</td><td>100%</td></tr></table> 活動1-2. 5歳未満児診察用の医療備品の配備 内容:購入が必要な物品の最終アセスメント実施(2017年3月,4月) 対象施設:郡病院2箇所,ヘルスセンター13箇所 2017年9月現在,3者見積もり中 活動1-3-1. IMCI 臨床研修	100点満点中	50点未満	50～69点	70点以上	事前テスト結果	33.3%	33.3%	33.3%	事後テスト結果	0%	0%	100%
100点満点中	50点未満	50～69点	70点以上										
事前テスト結果	33.3%	33.3%	33.3%										
事後テスト結果	0%	0%	100%										

内容： 変更報告にて県・郡病院職員を対象とした IMCI 臨床研修を追加し、実施した。IMCI 指導員養成研修を受ける予定の職員を対象に、IMCI テキストに沿った、座学、ロールプレイ、ケーススタディ、郡病院での実地研修などを行った（中央保健局の IMCI トレーナーおよび県病院のトレーナー 2 名を起用）。当初より計画していた郡・ヘルスセンター職員対象の IMCI 臨床研修（各郡 2 回計 4 回）は 1 年次後半に実施予定である。

期間： 2017 年 5 月 22 日～26 日

対象者： フアパン県保健局職員、フアパン県県病院職員、ソン郡およびフアムアン郡郡病院職員とメディカル・コーディネーター（MdM スタッフ）

合計 15 名

成果： 研修受講者 15 名全員が、研修で小児医療の知識を獲得した。

事前テストでは、50 点以上が受講者全体の 22.5%にとどまったが、事後テストでは、50 点以上取得者が全体の 94%に達した。

<事前・事後テスト結果 受講者成績分布表>

100 点満点中	50 点未満	50～69 点	70 点以上
事前テスト結果	77.4%	19.3%	3.2%
事後テスト結果	6%	62%	32%

なお、IMCI 臨床研修で得た知識は実践監修（活動 1-4）で確認し、また、1 年次後半に実施予定の IMCI 指導員養成研修（活動 1-1）とヘルスセンター向け IMCI 臨床研修において指標に達するよう補完・強化する。

活動 1-4. ヘルスセンター・郡病院における共同技術監督

内容： 外部小児医療専門家を派遣し、1-3-1 にて研修を受けた県・郡病院職員によるヘルスセンター技術監督に同行し、その支援・強化を行った。また、技術監督の際に使用するスーパービジョンツールについての検討を行った。

現場活動期間： 2017 年 6 月 2 日～9 日

成果： フアムアン郡の 4 ヘルスセンタースタッフ全員（合計 8 名）および郡病院スタッフ 2 名が、合同監修チームによる現場臨床監修を受けた。また、監修チームである県・郡病院スタッフ 2 名が、スーパービジョンのあり方、スーパービジョンツールの適切な使用法について学習した。

2. 村落における小児医療に関する正しい知識の普及

活動 2-1-1. 村落での小児疾病に関する意識調査とニーズアセスメント

内容： 2-3-1（VHC 研修）をよりニーズに沿った内容にするための事前アセスメントを県・郡保健局と合同で行い、MdM にて報告書および提案書をまとめ、県・郡保健局と VHC 研修を企画するためのベースとした。調査は、事前に準備した質問票を用い、村落ではグループインタビュー、ヘルスセンターでは 1～3 名のスタッフ（およびボランティアスタッフ）からインタビューや母子

保健に関するデータ収集を行った。報告書には2016年の調査結果も勘案した。

＜報告書の要点＞

- ・5歳未満児の養育者が、乳幼児健康についてどれほど理解しているか、また、最寄りの医療施設の利用状況や利用しにくい理由などをまとめた。
- ・VHCメンバーから、村落の子供の養育環境、健康状態、衛生状況に対する認識を聞き取りまとめた。健康教育普及という役割を果たすために必要なこと、住民が必要としているニーズをまとめた。
- ・ヘルスセンタースタッフの視点からみた、村落の健康意識や村民の取り組みの様子、また、ヘルスセンターと村落の協力状況や課題についてまとめた。

＜主な提案の内容＞

上記報告書内容をうけ、VHC研修で必要な内容を抽出し要約。住民の理解を得るために必要な方法についてもリストアップした。

報告書及び提案書の権利帰属はメドウサン・デュ・モンド ジャパンである。

期間：2017年3月、4月

対象：ソン郡7村、フアムアン郡約9村の養育者、VHCメンバー（村長、VHV、女性同盟、青年同盟、年長者等）、13箇所ヘルスセンター職員

成果：小児疾病に関する村人の理解度レベル、指標1-3-1のベースラインとなるヘルスセンターサービスへの満足度、その他のニーズを把握し、VHC研修計画への提案書を作成した。

活動2-1-2. 情報・教育・コミュニケーション（IEC：Information, Education and Communication）教材の作成

内容：健康普及メッセージをプリントしたTシャツを製作した。

2-3-1で使用するフリップチャートやポスターなどの補助教材についてはMdmと県・郡保健局間で最終打ち合わせ中。

活動2-2. 健康教育担当者養成研修

内容：場の雰囲気づくりやファシリテーターとして効果的な健康教育を提供するノウハウを学ぶため、旧事業地よりトレーナーを招聘し、研修を実施した。

期間：2017年5月29～31日（3日間）

対象者：ソン郡、フアムアン郡およびフアパン県の健康教育担当者とコミュニティ・ワーカー（Mdmスタッフ） 合計16名

成果：研修受講者16名全員が、研修で健康教育技能を修得した。事前テストでは60点以上を取得した受講者が全体の25%であったのに対し、事後テストでは、80%を超える参加者が60点以上を取得した。

＜事前・事後テスト結果 受講者成績分布表＞

100点満点中	40点以上	60点以上
---------	-------	-------

	60点未満	
事前テスト結果	75%	25%
事後テスト結果	19%	81%

活動2-4. 村落保健活動に必要な備品の配備[自己資金]

内容：村落に配布する身長・体重計（両用）および体温計を購入した。VHC研修における指導方法について郡保健局と検討中。9月以降配布開始予定。

成果： 備品購入済み。

活動3. IMC（Implementation Monitoring Committee, プロジェクト実施管理委員会*）ミーティング

期間： 未実施（2017年11月に実施予定）

内容： 事業の進捗についてIMCへ報告し、協議（年1～2回程度）。年1回程度、会議の事前にIMCメンバーから選抜した外部調査員を村落に派遣し、ヘル

スセンターのサービスに対する満足度調査などを行い、会議にて共有する。

開催場所： フアパン県保健局

* 委員会は、国レベルから郡レベルまでの関係者代表から構成される。

②現状での課題・問題点

1. メディカル・コーディネーター（以下MC）の不在

事業開始直後から、MCの公募と候補者の試用を進めてきた。しかしながら、同ポジションは医療的な知識とコーディネーション能力の両方を必要とするため、求める能力に合致する人材の正式採用に、想定した以上の時間を要している。対象事業地が遠隔地にあり、遠隔地赴任に同意する人が少ないことも本採用の遅れに影響している。MCが不在の間はカントリーコーディネーターがMDを兼任し、カウンターパートと連携して予定した活動を削減することなく進めている。また繁忙期には短期雇用人材を確保するなどして対応している。

2. カウンターパートである保健局の人材不足によるコーディネートの困難

本事業の各活動は、県および郡レベルの保健局職員と協働して進めており、準備段階からカウンターパートの関与が欠かせない。しかし、同保健局は慢性的な人材不足の状態にあって、他業務の都合から必要なコーディネーション会議の設定や進捗確認作業に時間を要することがある。現状で深刻な事業の遅れには繋がっていないが、今後コーディネーションの遅れが活動進捗に影響する可能性もあり、対策が必要と考える。

③今後の対応方針

1. MCの不在に対する対応

	可能な限り早期の雇用に向けて、２０１７年９月現在も複数名の面接を実施中である。面接者の中から選定して、２０１７年１０月中には新規の試用を開始することを計画している。 ２．保健局のコーディネートに関する対応 人材不足の状況下において、他業務との優先順位付けで本事業の活動調整が遅れることの対応として、保健局コーディネーターとの定例会議を設定することとする。同定例会議において、急ぎコーディネートを必要とする事案を関係者間で確認し、各自の役割も明確にする。活動に関する日常的な協議の場を一元化することで時間短縮にも繋がることを期待するとともに、コーディネーションの進捗確認も同時に行なうことができる。 ④SDGs の該当目標との関連において ２０１７年９月に小児医療指導員の育成を行なった。従い、今後は村落の子どもに一番身近なヘルスセンター職員への研修を、対象県・郡が独自に継続して行うことが可能になった。また、村落健康普及活動トレーナー養成研修も修了したため、今後は村落健康普及活動を行う VHC に対して研修ができる体制も整った。このように本事業は、最終受益者である５歳未満児の医療保健環境の整備を進めており、SDGs の目標３の３－２、５歳未満児の死亡率・疾病率の低下に貢献していると言える。
８．期待される成果と成果を測る指標	上位目標：成果１，成果２を通じ，SDGs の目標３－２「新生児および５歳未満児の予防可能な死亡根絶」に貢献する。また，成果３を通じて，該当目標達成のための活動が現地パートナーにより自立発展的に継続していくことを目指す。 成果１．フアパン県ソン郡・フアムアン郡における医療施設の医療従事者の小児医療に関する知識，技術の向上を通じ，適切な小児医療が小児（５歳未満児）に提供される。 指標１－１． １年次：研修受講者全員が IMCI 指導員として認定される（研修実施報告書作成） 指標１－２． １～２年次：各年度予定小児医療備品配備が全対象施設で完了する（実績記録） 指標１－３－１． １年次：研修受講者の全員が，研修で小児医療の知識を獲得する（修了試験の得点平均 7 割以上） １年次：聞き取り対象となった療医施設を受診した５歳未満児の養育者のうち 5 割以上がサービス改善を実感する（スタッフの接遇，処置内容，処方説明，次回訪問必要性についての説明が「以前よりよくなった」と応える）

	指標 1－3－2. 2 年次：事前テスト結果が事後テスト結果を上回る。事後テスト結果平均 65 %以上。 3 年次：事前テスト結果が事後テスト結果を上回る。事後テスト結果平均 65 %以上。 指標 1－4. 1 年次～3 年次：各施設における共同スーパービジョン(技術監督)において、スーパービジョンツールの採点結果が向上する（各施設の成績結果の推移） 成果 2. 住民の小児疾病，疾病予防に対する理解が高まり，適切な受診行動が促される。 指標 2－1－1. 1 年次：小児疾病に関する村人の理解度レベル，指標 1－3－1 のベースラインとなるヘルスセンターサービスへの満足度，その他のニーズが抽出される（報告書作成） 指標 2－1－2. 1～3 年次：対象者全員に教材配布を完了する（実績記録） 指標 2－2. 1 年次：研修受講者の全員が，研修で健康教育技能を修得する（修了試験の得点平均 7 割以上） 指標 2－3. 2 年次：研修受講者が受講前よりも理解を深め，新たな知識を得る（終了時の質疑応答の結果もしくは事前・事後テスト結果） 3 年次：研修受講者が受講前よりも理解を深め，新たな知識を得る（終了時の質疑応答の結果もしくは事前・事後テスト結果） 指標 2－4. 1～2 年次：2 年次全対象者に備品が配布される（実績記録） 指標 2－5－1 指標 2－5－1. 1～3 年次：VHV の働きかけで健康教育集会に参加する村民が前年度よりも増える（参加者数記録） 1 年次：健康普及教育活動に参加した村人が VHV の健康普及活動の改善を実感する（解説の明瞭性，具体性，日ごろの活動頻度，積極性などの項目の 5 割以上で「以前よりよくなった」と回答される） 2 年次：健康普及教育活動に参加した村人が VHV の健康普及活動の改善を実感する（解説の明瞭性，具体性，日ごろの活動頻度，積極性などの項目の 6 割以上で「以前よりよくなった」と回答される） 3 年次：健康普及教育活動に参加した村人が VHV の健康普及活動の改善を実感する（解説の明瞭性，具体性，日ごろの活動頻度，積極性などの項目の 7 割以上で「以前よりよくなった」と回答される） 指標 2－5－2.
--	--

	1 年次：1 年次活動から抽出された課題に対し、郡行政レベルで具体的なアクションプランが策定される（アクションプラン策定） 2 年次：前会議で策定されたアクションプランが70%以上実行されている（アクションプランレビュー報告書） 3 年次：前会議で策定されたアクションプランが80%以上実行されている（アクションプランレビュー報告書） 指標 2－6. 3 年次：村落での健康教育活動に参加した聞き取り対象者の6割が、学習内容を正しく実践している。（聞き取り調査） 成果 3. 関係者全員が問題を把握し、解決手段を考え、実行する 指標 3－1. 1 年次：1 年次活動から抽出された課題に対し、県行政レベルで具体的なアクションプランが策定される（アクションプラン策定） 2 年次：前回に策定されたアクションプランが70%以上実行されている（アクションプランレビュー報告書） 3 年次：前回に策定されたアクションプランが80%以上実行されている（アクションプランレビュー報告書）
--	--